

2024 ≪構音≫指導講座〔参加感想〕

今年も“熱い”と書きたくなるような日々が続いております。

この度の構音指導講座も、『目の前の構音に問題のあるお子さんに対して、なんとか“普通”の構音でお話ができるようにしてあげたい』との思いが強く感じられる講座になったと、≪参加感想≫を読みながら実感しました。

ところで、先日、山梨在住の50歳台の方から、「側音化構音は、今からでも直るのでしょうか？」というお電話をいただきました。小学校（当時、首都圏）で“ことばの教室”に通い、「もう大丈夫」と言われたものの、「ペロの形も動きもまだ変？」と感じつつも、終了に応じたそうです。それ以来、40年以上本当に、本当に直らないのか？との思いから逃れることはなかったと、話されていました。まだ、諦めきれず、ネットで検索していたところ、当相談室HPで、ペロの形も動きも直っているのを見て、今からでも直るものなら直したいとの思いで電話をくださったとのことでした。

こんなことがあって良いのでしょうか？ 実は、“構音”が直っていない段階で「ペロがまだ変なのに終了させられた(親御さんの声)」という小学生の親御さんからも、このような相談？があるのです。

講座後の参加感想を読ませていただいて、毎回、思うのです。「この程度直れば…」ではなく、『単純に、普通の構音で話をしたい』との普通の願いに、正面から取り組もうとしている多くの指導者が、間違いなくいらっしゃる、と。そして、そのことが、講座開催のモチベーションになっている、と。

この感想【含：皆さんの感想への梅村の感想やコメント、また、質問に対する回答】を、相談室のHPに掲載することをご了解いただき、ありがとうございます。

山形言語臨床教育研究会代表 梅村 正俊 2024.11.30

【お断り】

- ① 行替えは、本文と異なる場合があります。
- ② ※付きの記述、及び、文中での【●●】内の記述は、梅村の感想や意見です。
個人の感想に対して、多少厳しいと感じられるコメントを述べさせていただいた箇所が数か所あります。これは、決して、個人へ向けたコメントではありません。本講座に参加された**全ての先生方に考えていただきたい内容**と受け止めて下さい。尚、梅村からのコメントの記述は、全て明朝体で記載してあります。
- ③ **ご本人の記述（書体 = HG 丸ゴシック M-PRO）の中で、赤文字にした部分も、全ての先生方にも考えて頂きたいと思える内容です。**
- ④ 構音記号は、旧記号です。ご了承ください。
- ⑤ 個人名は、所属を含めて全て記入しておりません。ですが、おおよその職種があったほうが良いと考え、以下の4種に分類し、番号の後に記しました。

A：通級指導教室（ことばの教室） B：病院・福祉関係の言語聴覚士

C：歯科クリニック関係 D：その他

7月27日（土） 2024 構音指導講座〔日程〕 ※ 登場人物の名前は、全て仮名です

受付	9時30分～10時頃
<p>内容① 構音の誤り方の様相とその要因と疑われる発達上・認知上・医療上の問題</p> <p style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; text-align: center;">構音指導上の戒め：100回模倣させて、100回誤り音になったら、その誤り方を100回練習させたことになる</p> <p>内容② /k/や/s/などが、/t/に置換されていた年長女兒とし子さんに対する指導</p> <p>◆通室1回目【11分】〔初回面接〕：個別指導室への入室から構音検査終了までの様子 課題1：指導者の動きの理解＝指導者のどんな動きが、どんな目的を持っているのでしょうか？ 課題2：指導開始音の選定＝構音検査の結果から、/k/を選定したのはなぜでしょう？</p>	
昼食・休憩	12時～13時頃
<p>◆通室2回目 ・/k/の構音(点)指導から単音節「か」での指導</p> <p>◆通室3回目 ・単音節「か」の完成から「おかあさん」へ</p> <p>◆通室4回目 ・「か」の『語頭⇒語尾⇒語中⇒句』での指導</p> <p>◆通室5回目 ・「か・こ」の『語中⇒句』での指導</p> <p>◆通室6回目 ・「か」のつく単語のスゴロク〔3回戦のみ〕 ・/ʃ/の『構音(点)指導から語中⇒句』での指導</p> <p>◆通室7回目 ・/ʃ/の『語中⇒句』での指導 ・「しゃ」の『語中⇒句』での指導</p> <p>◆通室8回目 ・/k, s, ʃ/の『句』での指導</p>	
夕食・休憩	17時30分頃～18時30分頃
<p>◆通室9回目 ・/k, s, ʃ/の終了に向けた指導</p> <p>◆通室10回目</p> <p>◆通室11回目 ・フリートーク ・誤り音の有無の最終確認</p>	
1日目終了	20時30分頃

7月28日（日）

開場	9時30分
<p>内容③ 機能的構音障害としての側音化構音に対する構音点指導の基礎</p> <p>・小学3年女兒(まりさん)に対する [ʃi] [tʃi] の18分間の構音(点)指導の視聴と解説</p> <p style="text-align: center;">◀ 構音(点)指導開始後18分で [シ・チ] が出る ▶</p> <p style="text-align: center;">この18分の中に、構音(点)指導の原則のほぼ全てが含まれています</p> <p>内容④ 舌の体操や舌を平らにする指導の必要のない、年中兒から始められる側音化構音への楽しい構音(点)指導の紹介</p> <p>年長兒びいさん(通室10回終了)の側音化構音「ち」への構音指導</p> <p>『/tʃ/ 構音(点)指導』から『「ち」の句での指導』までの視聴と解説</p> <p>◆通室1回目 ◀初回面接及び初回検査▶ ・/i/の構音動態</p> <p>◆通室2回目 ◀構音指導1回目▶ ・『/tʃ/ 構音(点)指導』から『単音節「ち」が言える』までの視聴と解説</p>	
昼食・休憩	12時～13時頃
<p>◆通室3回目 ◀構音指導2回目▶ ・『「ち」の句での指導』までの視聴と解説</p> <p>内容⑤ 早期改善を目指す構音指導のプログラム（基本）〔R19〕から</p> <p>「構音指導の段階」の解説と『会話への般化の手続き』の視聴と解説を中心に</p> <p>A 『構音指導プログラムⅢ会話への般化の手続き』のいくつかの指導場面</p> <p>B 『構音指導プログラムⅣ終了への指導』のいくつかの指導場面</p> <p>対象兒：年長兒・小学1年生の側音化構音で指導を受けた子の3、4人</p> <p>◎ 年長兒やす子さんの側音化構音 [ke・ki] への構音(点)指導</p> <p>通室3・4回目◀構音指導2・3回目▶の指導から</p>	
終了	16時30分

O1B

構音指導方法について、勉強になりました。

梅村先生の言い方がきびしいと感じる時があり、怒られていると思いました。また、他の団体等の批判的な発言をよく言われていて嫌な思いをしました。しかし、先生がおっしゃった無駄な訓練を長年続けられているお子さんのことを考えての怒りだったんですね。

今後の訓練の組み立てに努力いたします。

※ 不快な思いをさせてしまい、もうしわけありませんでした。そして、その後のフォローのお言葉、ありがとうございます。

ところで、ずいぶんと以前の事です。ある研究所からだされた文献(2010)に、以下のような言葉がありました。

- ① 主訴は構音障害であるが 自己表現を豊かにする支援が必要と考えられたAさん
- ② 主訴は構音障害であるが 認知面の偏りへの支援が必要と考えられたBさん
- ③ 主訴は構音障害であるが マイペースさが強いことへの支援が必要と考えられたCさん

一見、教育的に感じられるのですが、待てよ、「自己表現が豊かになると構音は、改善するの?」「認知面の偏りがなくなると構音は、改善するの?」「マイペースでなくなると構音は、改善するの?」と、肝心の主訴である『構音障害の改善』は、どこに行ったのでしょうか。

大切なことなので繰り返します。自己表現が豊かになっても必ずしも構音は改善しませんし、認知の偏りがなくなっても必ずしも構音は改善しませんし、マイペースでなくなっても必ずしも、構音は改善しません。“主訴”は、どこに行ってしまったのでしょうか。

数年前になります。[ke]の側音化構音で指導を受けていらっしゃる3年生のお子さんのお母さんから、お電話をいただきました。「小学1年の5月からことばの教室に通級している」「(【AD04】を観て)10回で直ることがあるんですか?」「オセロをしたり、劇の台詞の練習をしたり、お絵描きしているみたいなのですが…。」とのことでした。お母さんとしては、“そんなことをして、それで構音は、直るのか!”と言いたかったのでしょうか。そのようなことを何年やっても構音は改善しないことを話しながら、きつねに抓まれた気分になったのでした。



先のある研究所から出された文献で、さらに驚かされた単語があります。それは、“長期目標”という単語です。

『構音の改善』を考えると、“長期目標”を設定する、もしくは計画することは、親御さんの願いに叶うことなのでしょうか?

梅村・長澤(1983)【R02】は、「イ列構音障害の改善に要した時間とその要因について」で、小学1年生で13回の通級の終了を、また、梅村(1997)【R09】は、「構音指導における『構音の改善』に関わるいくつかの要因について」で、側音化構音の小学2年で5回の通級で、同様に側音化構音の幼児で9回の通級で改善終了した事例を紹介しています。



終了時の構音の状態は、舌の膨らみや下顎の偏位の消失【AD04】をもって終了としています。

ご自分が親ならどうでしょう？ 通級させることの大変さに想いを馳せて下さい。相談に伺ったその日に直してもらえたらどんなに嬉しいことかと考えるのではないのでしょうか？

この“長期目標”という単語は、本人のみならず親御さんの「1日、1回でも早く直って欲しい、直して欲しい」との想いを踏みにじる言葉だ、と言うのは言い過ぎでしょうか？

さらに蛇足です。先の文献の中に、気になる内容が記述してありました。それは、「1回の指導の指導展開例」が示してあったのですが、90分（ほぼ2教時分の時間）の指導の展開に、構音指導が1分もないのです。

梅村の臨床教育の理念は、『構音指導のプロセスを通して人格形成を図る』という考え方です。50数年前、先輩の実践から学び、今なお大切にし、追及している考え方です。

文献Aは、15年も前の文献です。“必要且つ充分”な、それでいて“短期間”で本人や親御さんが切に願う『構音の改善』に寄与する指導の方法論や技術を紹介して下さいることを切に望むものです。

O2B

案内を読ませて頂き、今まさに私が困っていること、悩んでいることだと思い参加を決めました。何より惹かれたのは「舌の体操は必要ない」という言葉と指導終了までの早さでした。これまでは「舌を平らに・・・」が全てだと思っていたので、指導に時間がかかるし、幼い子への構音指導の【開始時期が】遅いことは仕方のないことだと思っていました。なので正直、そんなに短い時間で本当に改善するのだろうか、という気持ちもありました（申し訳ありません・・・）。しかし、講義を受け、改善したお子さんをみると今までの【自分の】指導は何だったのだろうか・・・

余計な時間と負担をかけていたことが分かりました。そして何より、親御さんの気持ちになって考えること、お子さんの様子を見て指導を進めることが全くできていなかったと反省しました（指導とは言えないと今振り返っています）。

初回面接の関係性をつくることの大切さを2日間通して何度も感じました。「楽しく!」を頭に入れるばかりで主導権はお子さんに持っていかれていました。今後の指導につながる関係性どころか、「自由に過ごして良い場所」をつくっていたので、言語指導に乗らないのは当たり前ですね。今から関係性を再構築することは大変だと思いますが、私がまず初めに取り組むことだと思いました。

舌の運動はすぐやめます。さらに自宅での学習もすぐにやめようと思います。

常にお子さんと親御さんのことを考えて臨床を行いたいです。

O3B

1日目(土)

私は今まで、構音訓練といえば、教本に記載されているものを使い、療育プログラムを作ってきました。しかし、本日の講座を聞き、今まで行ってきたのは子供について考えたものではなく、結局、教本を主体に考えてしまっており、自分自身に怒りが湧きました。先生がおっしゃられた、人に対してではなく、生きていないものに自分自身今まで向き合っていました。構音訓練方法も凄く参考になったので

すが、一番衝撃を受けましたのは、**子供の心理を掴む事で構音訓練が成り立つという所です**。子供が玄関から来てからがもう分析をしていかなければならないという構えが自分自身に付きました。

本日、先生からは、構音訓練についての考え方や手法をご教授頂きました。しかし、あくまでもやっとスタート地点に立った段階である事も強く感じました。心理学やMFT、そして体の筋肉、神経等について、知識を深めていき、幅広い観点で子供に携わっていきたいです。明日の講習も楽しみにしています。

2日目の構音指導講座、ありがとうございました。私自身側音化構音の子供を対象にした時がなかった為、非常に勉強になりました。その中で、置換の訓練と変わらない指導法でも、改善する事が出来る事を改めて動画で見る事が出来、とても勉強になりました。私自身、今まで成人のリハビリに携わっており、今年の4月から初めて小児に携わる事になった立場としては、とても助かりました。今後の私の道を教えて下さりありがとうございます。

O4B

今まで、「誤り音をなおす」ことを意識して構音指導を行ってきました。

しかし、なおすのではなく、「新しくつくる」が衝撃的でした。

“子どもがゲームをしに来る”、こんなに楽しい構音指導があるのだと驚きました。

また、発音ではなく、構音で判断すること、臨床ができていないと気付きました。

早急に勉強をし直し、明日からの臨床に活かします。

1日でも早い終了を肝に銘じて、日々臨床にあたります。

O5A

いつも密度の濃い講座をありがとうございます。この講座に通い続けているうちに、動画を見た時今の先生の動きは？ 子どもの様子からわかることは？ と、いちいち考える癖がついてきました。

(かといって、正しく判断が瞬時にできるところまでは全く及ばないのですが・・・)

今回、通室1回目から終了まで全部の回を見せていただくことができ、とてもわかりやすかったです。子どもが出した音の評価 OやO、花丸の使い分け。舌まねと同時に音による刺激の与え方など、テンポ良くどんどん指導が進められていく様子についても、先生の解説があったおかげで見方が分かってきました。

難しいと感じるのは模倣させる舌の見せ方です。自分が出せる舌や音のレパートリーが少ないように思います。そのため、子どもにうまくマネさせられない時に手づまりになりやすいです。先生の動画をくり返し見て勉強します。

O6A

年長女兒とし子さんの指導動画、通室開始から終了まで見せていただき大変勉強になりました。先生の1つ1つの動作 全てに意図があることを学ばせていただきました。先生の何気ない動作が、模倣させること、**身をのり出して聞いてほしいこと**、テンションを下げて落ち着いた状態でまねさせるこ

と・・・等々、子どもの動きに全てがつながっていることがわかりました。先生の解説がなければ見落としていることもたくさんあり、先生の指導の奥の深さを感じました。子どもと出会った時から構音指導は始まっている、出会ってイスに座るまでも含めて待合室から指導は始まっている【待合室にこだわらず、“その日出会ったその瞬間から”が指導なのです。つまり、校内通級なら廊下でその子と遭ったらその瞬間も、校外通級ならことばの教室に到着したことを知らせる挨拶でその子と会ったその瞬間から指導は始まると自覚しましょう】、全てが指導になる、ということがわかり、自分もそのことを意識していかななくてはならないと感じました。また、音の指導では、1つの音の模倣のさせ方にも工夫があること、そのために先生の言い方にも意図があることがわかりました。どの指導を見ても、子どもたちの楽しそうな姿が心に残りました。楽しくしているのは指導者【指導者も楽しいのです】なのだと思いました。私も子どもが楽しく思えるような指導をしていきたいと思いました。

07A

ことばの教室を担当したばかりの頃は、ベテランの先生に教えていただいたり、ブロック研究会で授業を見せていただいたりして学び、指導改善を続けていました。梅村先生が指導講座をひらいていると知り、参加するようになってから通級するお子さんのしぐさや表情ひとつひとつをよく観察したり、自分のしぐさや表情ひとつひとつをよく考えて指導するようになりました。（でも今日の講座を受けて、まだまだだと反省ばかりです。）提示を鏡に映して研究するようにもなりました。転任先では口蓋化や側音化で1年以上通級するお子さんが改善できるようにお手伝いすることもできるようになりました。ですが、同じような方法ではうまくいかず、自分の迷った指導のせいで時間ばかり経過してしまうケースも少なくありません。学んだことが“自分のもの”になっていないと感じています。今回、また、指導を学ぶため参加しました。

出会い（初回）について、そのやりようではほぼ関係づくりが決まる重要な回であることは、参加するたびに“もっと感度上げてかわらなくては！”と身がひきしまる思いです。2人担当ですと2人が共通認識していないと難しさがあると思いました。

子どもの反応によって瞬時に判断し的確に提示し連続させて改善へ向かうやりとりは、とても自然で、子どもさんが知らず知らずのうちに引きこまれ、音がでちゃうのがわかりました。そのために入室時からの様々なしかけが先生の一言、一行動、視線などに仕込まれていることもわかり、解説されない場面も自分なりに想像(?) 思考しながらVTRを視聴させていただきました。

先生がくり返しおっしゃっていた「口の体そうは、必要ではない子にはしない」ことは自分も指導していて実感するところです。

私の最近の悩みとして、会話への般化に時間がかかることがありましたが、音づくり、その前の関係づくりから般化に向けた指導になっていなかったことがわかりました。練習のための構音にならないよう、『量の指導と質の指導』を組み合わせ、その子をとりまく環境、背景をイメージして、会話で改善できる指導をしていかなければ、そうならないとわかりました。これまで会話への般化は最後の砦のようにとらえていたので、すべてが繋がっているととらえ直し、再度、指導改善を図っていきます。

08A

こんなにも多くの指導の場面を見せていただける研修は他になく、（しかもフルで）とてもありがたい機会をいただきました。

指導のやり直しだなあ、と頭にうかんできた子もいます。申し訳ない思いです。

なぜそうしたのか、をととてもわかりやすく教えていただきました。ただ、ビデオで見てから「ここで指導がわかりましたよね」とストップが入り解説をして下さったあと、その場面をもう一度見せていただくと、より理解ができたかと思います。

舌がどんな状態であっても、こちらの提示を工夫？ してなおしていかなければならない、と改めて思いました。がんばってみようと思います。

09A

常に入室時から子どもの一挙手一投足にアンテナをはって指導を頭の中できみ立てていく、すごい仕事だと改めて思いました。課題音、言えていない音全てターゲットにするのではなく、子ども自身で獲得していくのに、任せるものは任せるという潔さとか見極める目も大切なことだと思いました。

般化がむずかしいと感じていましたが、あのくらいの早口だったりゆさぶりだったりをかけていくのだなあとヒントをもらえました。

誤らせてはいけないと誤解していましたが、誤りを誘発するスキルも必要というのは目からウロコでした。

『量』の指導の部分と『質』の指導の部分、今はどっち？ 意識してやってみたいと思います。

10A

1日目：10回の指導を視聴をさせていただきながらの解説は、大変勉強になりました。出会いから、“主導権は、担当”という意識付けをしっかりと行うこと、さらに“まねをする”という活動への下準備等、子どもの状態をみながら担当の方でコントロールしていく、その技を身につけていきたいです。

1つの言える単語を徹底して習得させることで、その語をつかって広げていく広げ方大変参考になりました。語頭→語尾→語中という順序でなくても、生活の中で、その子が言えない語（音）が言えるようにしていく方が、その子自身の生活が生き生きしてくるように思います。「お た あさん」を「お か あさん（語中）」へ誘導し【日常会話で】「おかあさん」と言えるようになり、初めて娘から「おかあさん」と呼ばれたお母さんは、胸がいっぱいになったのではないかと思います。

2日目：「発音指導ではなく、構音指導をしていくこと」という言葉が繰り返しありました。発音指導と構音指導の違いを考えたことがありませんでした。

2日目に再度、詳しくくり返しお話をしていただき、少しずつ理解できたように思います。もうひとつ印象に残ったことは、「治そうとしない。新しい音を作っていくという考え方

で行う」ということです。その子の今出ている音から利用できないか考えること、誤り『音』に注目をしないようにするという点についても教えていただきました。

【梅村の表現の仕方が不明瞭だったために、このような誤解を生じさせてしまったものでしょう。お詫びして訂正いたします。

正確には、“誤り『音』”は、聞き逃さぬよう細心の注意を払って聞き取ってください、『誤り“方”』には、あまりこだわらないで下さい、ということです。

例えば、[ki] や [ke] の側音について考えてみます。『誤り方』の構音運動を観察すると、舌が膨らみ、下顎が左右のどちらかに動く、どの程度舌が膨らみ、どの程度下顎が動くかは、大きく個人差があります。舌が膨らみ過ぎ、歯間から舌が出てしまうお子さんもいます。それが恥ずかしくて、「き」や「け」の発音時、口元を隠す子もいます。恐らくですが、このような様子から、舌を平らにする訓練やお口の体操をということになったのではないかと想像できます。

ですから、『誤り“方”』には、あまりこだわらないで下さい、なのです。機能“的”構音障害の本質を見誤りますから。

よく考えてみてください。[ka] や [ku] や [ko] の場合の [k] には、[k] の構音運動と全く同じですが、舌の膨らみや下顎の偏位は、認められません。同様に、「ち」の場合も、[tʃi] の [t] は、[ta] や [te] や [to] の [t] の構音運動と全く同じですが、舌の膨らみや下顎の偏位は、認められません。つまり、舌を動かす筋や下顎を動かす筋には、全く問題は無いと考えて良いはずです。従って、それらに対する指導・訓練は、必要ないことになります。

口の動きや舌の動きをしっかりと観察できるよう、構音運動で判断できるよう勉強しな おしたいと思います。

11A

- 細やかに子どもの理解をすることができるようになること性格、構音の状態、日常生活で使う単語など、集中して観察して言葉にできるようにしなければならぬと思いました。
- 1つの単語から広げていく提示、練習の仕方がとても参考になりました。
イントネーションやリズムを変えたり、語尾にことばを添えたり、それだけでも何パターンもあり、子どもも飽きないで集中できる姿がよく見えました。『量と質』の指導の工夫も考えたいと思います。
- 遊びを考えるのではなく、遊びみたいなやりとりを工夫するだけで、子どもたちは楽しく学べる【?】ところもよくわかりました。
- 1つ1つがとても時間がかかるし、イメージがふくらまなく悩むことが多いですが、1人1人に合わせて、よく考えて、指導に望みたいと思います。
新しい音を作るというイメージも大事にしたいと思いました。

12A

自分が指導している子どもをこんな風に上手にしてあげられればと思う理想を見せていただきました。

誤り音になりそうで、ちょっと『自信ない状態』のところでのかけひき。この子どもならという見とりの【この単語、苦手です。“判断”や“見極め”ではダメですか?】のもと、早期改善させるためにあえて×を誘い、自己修正できる力を育て、その自己修正に価値づけし、生活の中でも自然と自己修正していけるようにする構音面と、自信ないことにもチャレンジさせ誤り音になっても修正し、スムーズに言えるようにし自信のある状態にするという精神（心）の面、どちらもともに成長させている場面に感動しています。

そして、あくまでも子どもはゲーム、遊び、感覚で、練習・訓練させられている気もちのないまま上達している。【このような指導であれば、特に低年齢の子の場合は、終了してから数年後、「ことばの教室は楽しかったけど、何をしに行ったのかは覚えていない」という、素敵な結果になると思います】

このように指導できるようになるために、自分に足りないところに気づかされた2日目でした。「子どもの姿から何を見て、どう対応するか」逆に「こう提示したからこう反応された」をもっともっと分析していかなければと思いました。夏休みのスタートにこの機会をいただき、大変ありがたかったです

13B

発音・構音の違いから、音声記号について、自分で勉強しなおさなければならないことが分かりました。

また、なおすのではなく“つくる”という視点は初めてだったので大変おどろきましたが、先生が「プライド」のお話をしてくださった時、心が救われました。

また0から始めていきたいと思います。

14A

指導の過程を見せて頂き、大変ありがとうございました。

合わせて子どものどこをどう見るか（判断）をも教えて頂き大変参考になりました。

たくさんの言葉で練習するのではなく、課題となる音を含む1～2～3の言葉をさまざまに活用して正しい構音方法を身につけさせる先生の「楽しい」構音方法をまずはどこか1つとり入れられるようやってみたいと思います。（信頼関係がまずは第1ということですね。その通りです）

また、まずは国際音声記号の音と読み方とを学びなおさないといけないな、とも思いました。